

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	キリスト教学Ⅲ		
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	3		
3	授 業 時 数	16時間	7	期	前期		
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修		
10	担 当 教 員	氏 名	本堀秀一	9	授 業 形 態	講義	
		資 格	牧師			所 属	教会
		実 務 経 験	キリスト教プロテスタント派牧師 30年以上				
11	教 科 書	聖書 講師作成のテキスト・資料					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等						
13	科 目 の 概 要	① 前期では「聖書」の基本と常識について学ぶ。 ② 後期ではキリスト教の中心である『愛』について学ぶ ③ 授業構成: 講師の講義、質問に応じた解説。DVDとレポート提出。					
14	科 目 の 到 達 目 標	① キリスト教の教理を教え、生徒を入信させるためのものではない。 ② キリスト教の基本原理が生きる意味と力を与えるものであることを学ぶ。 ③ 信仰は知識の集積ではなく、生ける人格との出会いであることを学ぶ。					
15	科 目 の 必 須 条 件	① 授業必携: 「聖書」は必ず持参して下さい。 ② 出欠方法: 出欠をとる際に「聖書」を持ち上げ、講師に見せて返事をして下さい。 ③ 受講方法: 板書は少ないと思いますので、講義をメモするようにして下さい。 疑問、質問などは大歓迎です。聞くだけでなく積極的に講義に参加して下さい。 ④ 当番の学生は、講師室に来て、DVD・ビデオ等の有無を確認し、準備する。					
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: ちょうど認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講 義 の スケジュール	①	沖縄戦について/宗教と戦争				
		②	愛について① 愛と憎しみ				
		③	愛について② 愛するとは生きること				
		④	愛について③ 怒ることを忘れた愛				
		⑤	愛について④ エロスとアガペー				
		⑥	愛について⑤ 愛の自己中心性				
		⑦	愛について⑥ 憎しみから愛への変革				
		⑧	愛について⑦ 無償の愛				
		⑨					
		⑩					
		⑪					
		⑫					
		⑬					
		⑭					
		⑮					
18	参 考 書						

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	キリスト教学Ⅳ		
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	4		
3	授 業 時 数	16時間	7	期	後期		
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修		
10	担 当 教 員	氏 名	本堀秀一	9	授 業 形 態	講義	
		資 格	牧師			所 属	教会
		実 務 経 験	キリスト教プロテスタント派牧師 34年				
11	教 科 書	聖書 講師作成のテキスト・資料					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等						
13	科 目 の 概 要	① 前期では「聖書」の基本と常識について学ぶ。 ② 後期ではキリスト教の中心である『愛』について学ぶ ③ 授業構成: 講師の講義、質問に応じた解説。DVDとレポート提出。					
14	科 目 の 到 達 目 標	① キリスト教の教理を教え、生徒を入信させるためのものではない。 ② キリスト教の基本原理が生きる意味と力を与えるものであることを学ぶ。 ③ 信仰は知識の集積ではなく、生ける人格との出会いであることを学ぶ。					
15	科 目 の 必 須 条 件	① 授業必携: 「聖書」は必ず持参して下さい。 ② 出欠方法: 出欠をとる際に「聖書」を持ち上げ、講師に見せて返事をして下さい。 ③ 受講方法: 板書は少ないと思いますので、講義をメモするようにして下さい。 疑問、質問などは大歓迎です。聞くだけでなく積極的に講義に参加して下さい。 ④ 当番の学生は、講師室に来て、DVD・ビデオ等の有無を確認し、準備する。					
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講 義 の スケジュール	①	沖縄戦について/宗教と戦争				
		②	愛について① 愛と憎しみ				
		③	愛について② 愛するとは生きること				
		④	愛について③ 怒ることを忘れた愛				
		⑤	愛について④ エロスとアガペー				
		⑥	愛について⑤ 愛の自己中心性				
		⑦	愛について⑥ 憎しみから愛への変革				
		⑧	愛について⑦ 無償の愛				
		⑨					
		⑩					
		⑪					
		⑫					
		⑬					
		⑭					
		⑮					
18	参 考 書						

1	課 程	商業課程	5	科 目 名	就職対策Ⅲ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	7	
3	履 修 単 位	30	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	藤井 千秋	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	熊本YMCA学院
		実 務 経 験	実務経験5年以上			
11	教 科 書	ビジネス総合学科能力検定3級/就職対策ファイル				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	職業理解、自己分析、業界研究を早期に行い、より自分のやりたい業界への就職内定を得るための学びを行う。				
14	科 目 の 到 達 目 標	企業実習への参加意義及び目的を理解し、就職を視野に入れた企業を選択し、健康管理に留意しより良い社会人として実習をさせていたく。				
15	科 目 の 必 須 条 件	教養講座Ⅰ～Ⅱを履修している事。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	前年度(先輩)の実習の情報提供/実習希望調査			
		②	実習先選定(業界研究、WEBの活用方法等)			
		③	自己分析シート			
		④	自己分析シート			
		⑤	調査資料			
		⑥	個人面談			
		⑦	次週先決定/企業調査			
		⑧	実習ノート制作および事前資料作成			
		⑨	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑩	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑪	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑫	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑬	個人面談			
		⑭	個人面談			
		⑮	実習フォロー			
18	参 考 書					

1	課 程	商業課程	5	科 目 名	就職対策Ⅲ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	7	
3	履 修 単 位	30	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	藤井 千秋	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	熊本YMCA学院
		実 務 経 験	実務経験5年以上			
11	教 科 書	ビジネス総合学科能力検定3級/就職対策ファイル				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	職業理解、自己分析、業界研究を早期に行い、より自分のやりたい業界への就職内定を得るための学びを行う。				
14	科 目 の 到 達 目 標	就職内定。				
15	科 目 の 必 須 条 件	教養講座Ⅰ～Ⅱを履修している事。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	2022年の採用状況について/個人フローチャート			
		②	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		③	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		④	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑤	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑥	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑦	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑧	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑨	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑩	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑪	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑫	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑬	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑭	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
		⑮	個人別指導(エントリー、履歴書、面接対応その他)			
18	参 考 書					



1	課 程	商業課程	5	科 目 名	教養講座Ⅲ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	12	
3	履 修 単 位	30	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	藤井 千秋	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	熊本YMCA学院
		実 務 経 験	実務経験5年以上			
11	教 科 書	なし				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	一般的常識を学び、コミュニケーション能力を高めより良い、社会人となる為の学びを深める。				
14	科 目 の 到 達 目 標	クラスメイトと協力し合い、イベントを立案・計画・実践する。				
15	科 目 の 必 須 条 件	教養講座Ⅰ～Ⅱを履修している事。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション			
		②	オリエンテーション			
		③	交流会			
		④	交流会			
		⑤	スポーツデイ			
		⑥	スポーツデイ			
		⑦	企業見学・講話			
		⑧	企業見学・講話			
		⑨	企業見学・講話			
		⑩	各種委員会活動			
		⑪	時節のお手紙			
		⑫	時節のお手紙			
		⑬	個人ボランティア活動			
		⑭	個人ボランティア活動			
		⑮	個人ボランティア活動			
18	参 考 書					



1	課	程	商業実務課程	5	科	目	名	ビジネスマナーⅣ							
2	学	科	ビジネス総合学科	6	科	目	番	号							
3	授	業	時	数	7	期		後期							
4	開	講	学	年	8	選	択	・							
								必修							
10	担	当	氏	名	上村真智子	9	授	業	形	態	講	義	所	属	キャリアデザイン工房有限会社 オフィスUEMURA
			資	格	国家資格キャリアコンサルティング技能 士、国家資格キャリアコンサルタント										
			実	務	経										
11	教	科	書	実社会で求められるビジネスマナー											
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等														
13	科 目 の 概 要		社会人としていろいろな世代の方々としっかりとした人間関係を築くために必要な常識、自分の思っている事を相手にきちんと理解してもらえるコミュニケーション能力、語彙力を身に付けるために、いろいろな場面に求められる知識と適切かつスマートな対応を講義形式とロールプレイング形式で学ぶ。 □												
14	科 目 の 到 達 目 標		社会人として対応するであろう様々な事柄にスムーズに適應でき、仕事に就く喜び、働く意味と意義をしっかりと認識出来る豊かな人間性と共に知識と常識を身に付けた人材の育成と輩出。												
15	科 目 の 必 須 条 件		成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席・その他点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。												
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準		成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かなり認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)												
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	マナーは自己表現				
										②	自己紹介、紹介のマナー				
										③	みだしなみのマナー				
										④	会社訪問と面談のマナー				
										⑤	接待のマナー、食事のマナー				
										⑥	席順のいろいろ、乗り物のマナー				
										⑦	冠と祭、結婚式				
										⑧	葬儀の心得、祝儀袋と不祝儀袋				
										⑨	贈り物、贈り物のいろいろ				
										⑩	冠婚葬祭の常識、お付き合いのマナー Q&A(冠婚葬祭編)				
18	参 考 書														



1	課	程	商業実務課程	5	科	目	名	ビジネスマナーⅣ					
2	学	科	ビジネス総合学科	6	科	目	番	号					
3	授	業	時	数	7	期		後期					
4	開	講	学	年	8	選	択	・					
								必修					
10	担	当	氏	名	上村真智子	9	授	業	形	態	講	義、	
			資	格	国家資格キャリアコンサルティング技能士、国家資格キャリアコンサルタント ダイバーシティコミュニケーションインストラクター アンガーマネジメントコンサルタント								
			実	務	経								験
							所					属	キャリアデザイン工房有限公司 オフィスUEMURA
11	教	科	書	実社会で求められるビジネスマナー									
12	関	連	資	格	・	検	定	等					
13	科	目	の	概	要	社会人としていろいろな世代の方々としっかりとした人間関係を築くために必要な常識、自分の思っている事を相手にきちんと理解してもらえるコミュニケーション能力、語彙力を身に付けるために、いろいろな場面に求められる知識と適切かつスマートな対応を講義形式とロールプレイング形式で学ぶ。							
14	科	目	の	到	達	目	標	社会人として対応するであろう様々な事柄にスムーズに適応でき、仕事に就く喜び、働く意味と意義をしっかりと認識出来る豊かな人間性と共に知識と常識を身に付けた人材の育成と輩出。					
15	科	目	の	必	須	条	件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席・その他点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。					
16	成	績	評	価	お	よ	び	評	価	基	準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)	
17	講	義	の	ス	ケ	ジ	ュ	ー	ル	①	会社と仕事、職業人の心構え		
										②	仕事のPDC、1日の計画		
										③	仕事のすすめ方、仕事もゲーム?		
										④	命令の受け方、忙しい佐藤さん		
										⑤	報告のしかた		
										⑥	ポイントの整理、整理整頓		
										⑦	職場の人間関係、オフィスでのマナー		
										⑧	友人からのプレゼント、チームワークを乱すもの		
										⑨	周囲の人々との接し方、お付き合いのマナー Q&A(職場の人間関係編)		
										⑩	自己啓発、自己啓発計画		
18	参	考	書										

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	労務管理 I	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	26	
3	授 業 時 数	16時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	西田 真理	9	授 業 形 態	講義
		資 格	社会保険労務士試験合格		所 属	平山社会保険労務士事務所
		実 務 経 験	社会保険労務士事務所 9年 総合労働相談員 3年			
11	教 科 書	公益財団法人全国労働基準関係団体連合会「やさしい職場の人事労務と安全衛生の基本」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	労働基準法のうち、主に「労働時間・休日・賃金」の基礎を学び、得た知識を活用して社会における諸問題について、自らの考えを構築する力をつける。				
14	科 目 の 到 達 目 標	労働法に関する基本的な事項を学ぶことを通し、社会で働くときに必要となる基礎的な知識及び考える力を習得することを目的とする。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の ス ケ ュ ー ル	①	オリエンテーション/労働法と労働契約①(「働く」とはということか)			
		②	募集する際の基本			
		③	人を採用するときの基本			
		④	労働時間・休憩・休日・休暇			
		⑤	賃金/女性の雇用管理			
		⑥	育児・介護休暇制度と性差別の禁止/年少者の雇用管理			
		⑦	36協定			
		⑧	雇用契約書について			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	労務管理Ⅱ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	26	
3	授 業 時 数	16時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	西田 真理	9	授 業 形 態	講義
		資 格	社会保険労務士試験合格		所 属	社会保険労務士事務所
		実 務 経 験	社会保険労務士事務所 9年 総合労働相談員 3年			
11	教 科 書	公益財団法人全国労働基準関係団体連合会「やさしい職場の人事労務と安全衛生の基本」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	労働基準法のうち、主に「労働時間・休日・賃金」の基礎を学び、得た知識を活用して社会における諸問題について、自らの考えを構築する力をつける。				
14	科 目 の 到 達 目 標	労働法に関する基本的な事項を学ぶことを通し、社会で働くときに必要となる基礎的な知識及び考える力を習得することを目的とする。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の ス ケ ジ ュ ー ル	①	36協定			
		②	雇用契約書について			
		③	安全衛生と健康管理			
		④	労働災害が発生したとき/福利厚生			
		⑤	退職、解雇、懲戒			
		⑥	短時間労働者・有期雇用労働者			
		⑦	労働基準監督署と凡例			
		⑧	まとめ			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	管理会計 I	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	29	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	井上 真二	9	授 業 形 態	講義
		資 格	販売士講師		所 属	(株)紅蘭亭グループHD
		実 務 経 験	(株)紅蘭亭グループホールディングス 管理部長			
11	教 科 書	ダイヤモンド社「ビジネス総合学科にいちばん使える会計の本」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	現場の数字として売上増、利益増のための目標の設定や数字の仕組み、改善方法などを予定				
14	科 目 の 到 達 目 標					
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の ス ケ ュ ー ル	①	算数がわかれば「会計」は理解できる			
		②	売上高・原価・粗利益・棚卸の基本的な考え方、労働配分率などの経費説明			
		③	事業の損益構造と構成比でチェックする			
		④	貸借対照表の理解法(BSの科目、BS・PL・CFのつながり理解)			
		⑤	貸借対照表の理解法(キャッシュフロー計算書、利益＝現金にならないわけ)			
		⑥	キャッシュフロー計算書をビジネスにどう使うか			
		⑦	損益計算書の確認テスト、貸借対照表の確認テスト			
		⑧	確認テストの説明			
		⑨	粗利益・原価率の確認、決算書で会社の健康状態をチェック			
		⑩	決算書での経営分析指標を使って会社の状態をチェック			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	管理会計Ⅱ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	30	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	井上 真二	9	授 業 形 態	講義
		資 格	販売士講師		所 属	
		実 務 経 験	㈱紅蘭亭グループホールディングス 管理部長			
11	教 科 書	ダイヤモンド社「ビジネス総合学科にいちばん使える会計の本」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	現場の数字として売上増、利益増のための目標の設定や数字の仕組み、改善方法などを予定				
14	科 目 の 到 達 目 標					
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の ス ケ ュ ー ル	①	前期試験問題を中心に決算書の復習			
		②	在庫管理の基本知識			
		③	どのように売上を増やしていくのか			
		④	どのように利益を増やしていくのか			
		⑤	儲けの出る売価をどうやって決めるのか			
		⑥	売上をいくら上げれば目標利益に届くのか			
		⑦	損益分岐点売上高の考え方			
		⑧	月次決算書の考え方			
		⑨	月次決算書の考え方			
		⑩	まとめ			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務課程	5	科 目 名	マーケティング・欲望の経済	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	34	
3	履 修 単 位	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	守田 義彦	9	授 業 形 態	講義とディスカッション
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	都市銀行23年(外為貿易実務7Y 営業6Y 融資担当7Y 本部審査担当3Y) ゴルフ場再建総支配人(出向)2Y ヒロ・デザイン 服飾専門学校事務長兼生徒募集10Y 美容専門学校再生学務長兼営業・広報10Y モア・ヘアメイク 美容学校国家資格必修関係法規授業12Y YMCA講師ビジネス総合学科8Y			
11	教 科 書	オリジナル テキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	現代の経済を理解する為、生徒に身近で興味のある20世紀ファッションから現代史を基に、過去から現代を振り返り、映画・音楽・サブカル等を巻き込みながら現在の21世紀ファッション・ビジネスを追求していく。特に今期は、産業革命の時代から人口増と共に世界経済が欲望に飲み込まれ、そこに貧富の経済格差が生じ、資本主義という概念が、どこから生まれ何を生み、何を残したかを考える。更に総ての現象が今やマーケティングに支配されていく欲望の時代に、より良いコンシューマースキルを考察する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	試験結果 80点以上 授業時間に何か一つでも あーそうかと納得したことを 後で自分なりに考え身につけること。 民主主義とは 資本主義とは の本質を理解すること。 消費・欲望・マーケティングについて理解すること。				
15	科 目 の 必 須 条 件	①あらゆることに興味をもち、好奇心を持ち続けること。②講義で理解できなかった事やもう少し詳しく知りたいことは質問し聞くこと。③礼儀・挨拶をきちんとやる。④講義の準備と後片づけを積極的に協力して実施。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	出席状況、学習態度及びコミュニケーション、授業教材の準備と協力 及び試験結果を基に評価する。				
17	講 義 の スケジュール	①	自己紹介。ファッションと経済。五感を大事にいつまでも好奇心を持つこと。販売は物を売るのではなく自分を売る。ホテルも同じ 気配りを売りながらお客を知る。JAPANとは？葛飾北斎の眼。現代のトレンドはカワイイからナチュラルへ。			
		②	1920年代ジャズエイジ。第一次世界大戦後 女性の進出がシャネルブームを作る。ファッションとスタイルの違い。2001年～2019年迄の現代トレンドと経済の動向。キーワードはスタイル・リミックス。M&Aによるブランド構築。			
		③	1950年代の大量生産・大量消費が何故アメリカから始まる。1960年代 大勢の若者が世界を動かす。スウィング・ロンドン、ビートルズ、ミニスカート、ROCK。アメリカ西海岸 ヒッピーの会話からアップルが誕生。GAFAの源は。			
		④	70年代ロンドン BIBA ロマンチック ベトナム戦争からサイケ、ドラッグ文化。80年代 米 アンディーウオホールPOP化。黒人アーティスト・バスキア ロンドン レイ・ペトリによるストリート・ファッション ベルリンの壁天安門広場。			
		⑤	90年代リミックス コラボ アテチュード 川久保玲 コムデギャルソンの精神的自立 バブル崩壊 低成長時代 リーマンショック 情報の氾濫 サブカルの高台 現代のブランド・ビジネス			
		⑥	欲望の経済学 大航海 東インド会社・産業革命から始まった欲望の世界はどこに向かおうとしているのか？日本は、産業革命から、どう影響を受け、明治・戦前・戦後の政治と経済等にどのような光と影をもたらしたのか。日本のサブカルまとめ。			
		⑦	身近なマーケティング論 安売りしないで低価格競争から抜け出す コンシューマースキルと文化論 女性マーケット グループ討議 安売りの問題点 商品より会社や人を守る スタッフの人材育成 ライフスタイルブランドとは。			
		⑧	資本論 国民の教育 市場経済(ケインズ～ウェーバー～新自由主義) B/S P/Lの見方と財務分析			
		⑨	ケーススタディ グループ討議 YMCA今後 新貨幣論 2.0価値革命 自由と平等 憲法『みんなの資本論』			
		⑩	最後の授業 まとめ 世界は誰の者か。ブランド力 シャネルの生き方 会社は誰の者か 物の価値『クレイジーシャネル』			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
18	参 考 書	国民の教育 渡部昇一 憲法学 小室直樹 サバイバル経営学 阪口大和 経済学 ポール・サミュエルソン 20世紀ファッション 文化服装学園 プロテスタンティズムの経済と資本主義の精神 マックスウェーバー 戦後経済史 野口悠紀雄 日本サブカル 宮澤章夫				

1	課 程	商業実務課程	5	科 目 名	観光時事 I	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	36	
3	履 修 単 位	16時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	阿部 貴司	9	授 業 形 態	講義
		資 格	総合旅行業取扱管理者		所 属	(公社)熊本県観光連盟アドバイザー
		実 務 経 験	(株)JTBに28年勤務 (公社)熊本県観光連盟に1年間出向			
11	教 科 書	手書き地図推進委員会「地元を再発見する！手書き地図の作り方」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	すそ野が広がるといわれる観光関連産業。観光の成り立ちや概念を理解し、そのうえでどのような業種や業態があるのかを理解する。また、自分たちの生活地域を認識しそこからビジネスモデルを考える。				
14	科 目 の 到 達 目 標	観光業の理解と地域ビジネスを理解し、ビジネスモデルを作り上げる。地域や各種団体との共同企画で新たなビジネスの発信を行う。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	講座概要、九州の観光地理			
		②	観光の概念と歴史について			
		③	なぜ観光に取り組むのか			
		④	磁場企業 セミナーへ①			
		⑤	旅行業について			
		⑥	オリジナル旅行作成①			
		⑦	地域の観光関連産・DMO、協会など			
		⑧	磁場企業 セミナーへ②			
		⑨	オリジナル旅行作成②			
		⑩	手書き地図製作①			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務課程	5	科 目 名	観光時事Ⅱ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	37	
3	履 修 単 位	16	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	阿部 貴司	9	授 業 形 態	講義
		資 格	総合旅行業取扱管理者		所 属	(公社)熊本県観光連盟アドバイザー
		実 務 経 験	(株)JTBに28年勤務 (公社)熊本県観光連盟に1年間出向			
11	教 科 書	手書き地図推進委員会「地元を再発見する！手書き地図のつくり方」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	すそ野が広がるといわれる観光関連産業。観光の成り立ちや概念を理解し、そのうえでどのような業種や業態があるのかを理解する。また、自分たちの生活地域を認識しそこからビジネスモデルを考える。				
14	科 目 の 到 達 目 標	観光業の理解と地域ビジネスを理解し、ビジネスモデルを作り上げる。地域や各種団体との共同企画で新たなビジネスの発信を行う。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10%出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリジナル旅行発表			
		②	手書き地図③+発表			
		③	手書き地図②			
		④	宿泊業について(民泊・農泊)			
		⑤	地場企業 セミナー③			
		⑥	交通業について			
		⑦	地場企業 セミナー④			
		⑧	地域の観光関連産業2 ガイド、着地型、地域商社、農林水産協業など			
		⑨	グループレポートまとめ			
		⑩	グループレポート発表			
18	参 考 書					



1	課 程	商業実務課程	5	科 目 名	英語コミュニケーションⅢ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	40	
3	履 修 単 位	40時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	田中 智子	9	授 業 形 態	講義
		資 格	英語検定1級 秘書検定1級 サービス接客検定1級 など		所 属	熊本大学就職課 (キャリアカウンセラー)
		実 務 経 験	日本航空株式会社で国際客室乗務員5年 英会話ジオスで英会話講師5年 熊本YMCA学園で国際ビジネス科・国際ホテル科・英会話英検講師・マナー講師として25年以上			
11	教 科 書	日本ホテル教育センター「ホテル英会話Ⅰ 応用編」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	ホテル・観光業での語学力は今後益々必要性を増します。インパウンドのお客様に対応できる様にワード、表現、リスニングをバランスよく身に着ける。				
14	科 目 の 到 達 目 標	確かな英語力と主体性、国内外のホテルで英語でのコミュニケーションをとれるレベルの会話のスキルを身につける。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の ス ケ ジ ュ ー ル	①	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson1	Room Reservations	
		②	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson1	Room Reservations	
		③	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson1	Room Reservations	
		④	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson1	Room Reservations	
		⑤	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson2	Check-in	
		⑥	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson2	Check-in	
		⑦	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson2	Check-in	
		⑧	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson2	Check-in	
		⑨	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson3	Hotel Services	
		⑩	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson3	Hotel Services	
		⑪	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson3	Hotel Services	
		⑫	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson3	Hotel Services	
		⑬	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson4	Tour Information	
		⑭	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson4	Tour Information	
		⑮	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson4	Tour Information	
		⑯	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson4	Tour Information	
		⑰	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson5	Check-out	
		⑱	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson5	Check-out	
		⑲	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson5	Check-out	
		⑳	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE	Lesson5	Check-out	
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務課程	5	科 目 名	英語コミュニケーションⅣ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	41	
3	履 修 単 位	40	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	田中 智子	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	日本航空株式会社で国際客室乗務員5年 英会話ジオスで英会話講師5年 熊本YMCA学園で国際ビジネス科・国際ホテル科・英会話英検講師・マナー講師として25年以上			
11	教 科 書	日本ホテル教育センター「ホテル英会話Ⅰ 応用編」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	ホテル・観光業での語学力は今後益々必要性を増します。インパウンドのお客様に対応できる様にワード、表現、リスニングをバランスよく身に付ける。				
14	科 目 の 到 達 目 標	確かな英語力と主体性、国内外のホテルで英語でのコミュニケーションをとれるレベルの会話のスキルを身につける。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE Lesson6 Telephone & Paging			
		②	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE Lesson6 Telephone & Paging			
		③	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE Lesson6 Telephone & Paging			
		④	CHAPTER I ACCOMMODATION SERVICE Lesson6 Telephone & Paging			
		⑤	CHAPTER II RESTAURANT SERVICE lesson7 Rrestaurant			
		⑥	CHAPTER II RESTAURANT SERVICE lesson7 Rrestaurant			
		⑦	CHAPTER II RESTAURANT SERVICE lesson7 Rrestaurant			
		⑧	CHAPTER II RESTAURANT SERVICE lesson7 Rrestaurant			
		⑨	CHAPTER II RESTAURANT SERVICE lesson8 Bar & Cocktail Lounge			
		⑩	CHAPTER II RESTAURANT SERVICE lesson8 Bar & Cocktail Lounge			
		⑪	CHAPTER II RESTAURANT SERVICE lesson8 Bar & Cocktail Lounge			
		⑫	CHAPTER II RESTAURANT SERVICE lesson8 Bar & Cocktail Lounge			
		⑬	CHAPTER III COMPLAINS & EMERGENCES lesson9 Complaints			
		⑭	CHAPTER III COMPLAINS & EMERGENCES lesson9 Complaints			
		⑮	CHAPTER III COMPLAINS & EMERGENCES lesson9 Complaints			
		⑯	CHAPTER III COMPLAINS & EMERGENCES lesson9 Complaints			
		⑰	CHAPTER III COMPLAINS & EMERGENCES lesson10 Emergencies			
		⑱	CHAPTER III COMPLAINS & EMERGENCES lesson10 Emergencies			
		⑲	CHAPTER III COMPLAINS & EMERGENCES lesson10 Emergencies			
		⑳	CHAPTER III COMPLAINS & EMERGENCES lesson10 Emergencies			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	中国語 I	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	42	
3	履 修 単 位	20時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	李 英	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	中国籍			
11	教 科 書	朝日出版社「ニーハオ！ニッポンーふりむけば、中国語」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	中国語の基礎を学ぶ				
14	科 目 の 到 達 目 標	簡単な中国語でのコミュニケーションをとれるレベルの会話のスキルを身につける。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	第1課 声調・短母音・複母音			
		②	第2課 子音(子音表・無気音と有気音・そり舌音)			
		③	第3課 鼻音を伴う母音・消えるe・eのバリエーション			
		④	第4課 声調変化・”不”の変調、”一”の変調			
		⑤	第5課 あいさつ用語・新出単語と会話、文法ポイント			
		⑥	第6課 ホテルチェックイン			
		⑦	第7課 夜景が綺麗			
		⑧	第8課 電車で			
		⑨	第9課 化粧品売り場で			
		⑩	第10課 花火大会			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務課程	5	科 目 名	中国語Ⅱ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	43	
3	履 修 単 位	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	李 英	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	中国籍			
11	教 科 書	朝日出版社「ニーハオ！ニッポンーふりむけば、中国語」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	中国語の基礎を学ぶ				
14	科 目 の 到 達 目 標	簡単な中国語でのコミュニケーションをとれるレベルの会話のスキルを身につける。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60)				
17	講 義 の スケジュール	①	第11課 日本の雑貨			
		②	第12課 おいしい和牛をどうぞ			
		③	第13課 日本の人気デザート			
		④	第14課 着物体験			
		⑤	第15課 温泉に入る			
		⑥	第16課 日帰りバスツアー			
		⑦	第17課 日本人と漫画			
		⑧	第18課 歌舞伎鑑賞			
		⑨	第19課 お土産を買う			
		⑩	第20課 別れ			
		⑪				
		⑫				
		⑬				
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	コンピュータ演習Ⅲ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	46	
3	履 修 単 位	40	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	山本・高畑	9	授 業 形 態	演習
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	大学情報処理非常勤講師 9年 熊日、RKKカルチャーセンター、各自治体公民館、自立支援、職業訓練センター、障害者支援施設 講師			
11	教 科 書	日経BP社 情報活用 ワープロ、表計算				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	日本情報処理検定協会 日本語ワープロ検定試験、情報処理技能検定試験 P検定協会 P検定3級				
13	科 目 の 概 要	全30コマでWord機能を使いこなしたワープロ文書作成技術と同時に表計算技術を習得し、効果的な事務処理能力を身につける。				
14	科 目 の 到 達 目 標	それぞれのソフトの機能を使い分け適応した文書作成ができ、表計算技術で速やかに効率よく事務処理ができる能力を身につけてほしい。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。授業内で作成する課題及び、指定された課題作成で40%の評価、資格試験、定期試験より40%、平常点10%、出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	Windows10の基礎			
		②	WORD入門			
		③	WORDの基礎			
		④	WORDの活用			
		⑤	WORDの活用			
		⑥	WORDの応用			
		⑦	WORDの応用			
		⑧	WORDとインターネット			
		⑨	WORDを用いたDTP			
		⑩	WORDを用いたDTP			
		⑪	Lesson1 〈実技〉ワープロ			
		⑫	Lesson1 〈実技〉ワープロ			
		⑬	Lesson1 〈実技〉ワープロ			
		⑭	Lesson2 〈実技〉表計算			
		⑮	Lesson2 〈実技〉表計算			
		⑯	Lesson2 〈実技〉表計算			
		⑰	Lesson3 〈一般問題〉コンピュータ知識			
		⑱	Lesson3 〈一般問題〉コンピュータ知識			
		⑲	Lesson3 〈一般問題〉コンピュータ知識			
		⑳	Lesson3 〈一般問題〉コンピュータ知識			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	コンピュータ演習IV	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	47	
3	履 修 単 位	40	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2学年	8	選 択 ・ 必 修	必修	
10	担 当 教 員	氏 名	高畑	9	授 業 形 態	演習
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	プログラミング・ICTに関する講師5年以上 プログラミング・システムエンジニア・カスタマーサポート20年以上			
11	教 科 書	30時間でマスターEXCEL2019・「P検」3級テキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	ITパスポート・ComMASTER				
13	科 目 の 概 要	ICTプロフィシエンシー検定試験3級				
14	科 目 の 到 達 目 標	ICTプロフィシエンシー検定試験3級合格				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席・その他点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	Windows10の基礎			
		②	WORD入門			
		③	WORDの基礎			
		④	WORDの活用			
		⑤	WORDの活用			
		⑥	WORDの応用			
		⑦	WORDの応用			
		⑧	WORDとインターネット			
		⑨	WORDを用いたDTP			
		⑩	WORDを用いたDTP			
		⑪	Lesson4 〈一般問題〉情報通信ネットワーク			
		⑫	Lesson4 〈一般問題〉情報通信ネットワーク			
		⑬	Lesson4 〈一般問題〉情報通信ネットワーク			
		⑭	Lesson5 〈一般問題〉情報モラルと情報セキュリティ			
		⑮	Lesson5 〈一般問題〉情報モラルと情報セキュリティ			
		⑯	Lesson5 〈一般問題〉情報モラルと情報セキュリティ			
		⑰	Lesson3 〈プロフィシエンシー〉ICTを活用した問題解決			
		⑱	Lesson3 〈プロフィシエンシー〉ICTを活用した問題解決			
		⑲	Lesson3 〈プロフィシエンシー〉ICTを活用した問題解決			
		⑳	Lesson3 〈プロフィシエンシー〉ICTを活用した問題解決			
18	参 考 書					

1	課 程	商業専門課程	5	科 目 名	フロント・オフィス	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	49	
3	授 業 時 数	20	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必選	
10	担 当 教 員	氏 名	西本 太	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	KKRホテル熊本
		実 務 経 験	ホテル勤務5年勤務			
11	教 科 書	ウィネット ホテルテキスト宿泊 I フロント・オフィス編				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	フルサービス・シティホテルの宿泊部門における運営に関する理解				
14	科 目 の 到 達 目 標	ホテル業に対するポジティブな思考を開拓し、宿泊業務全般にわたるオーソドックス セオリーを知ること				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かろうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	フロント・オフィスとは			
		②	客室のタイプと料金			
		③	リザーベーション業務			
		④	リザーベーション業務			
		⑤	レセプション業務			
		⑥	フロント・オフィスとはキャッシー業務			
		⑦	インフォメーション業務			
		⑧	防犯業務			
		⑨	実務 各種ビル、管理表等			
		⑩	実務 各種計算処理			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	宿泊総論		
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	50		
3	履 修 単 位	20時間	7	期	後期		
4	開 講 学 年	2年生	8	選 択 ・ 必 修	必修選択		
10	担 当 教 員	氏 名	藤井 千秋	9	授 業 形 態	演習	
		資 格				所 属	
		実 務 経 験	ホテル勤務5年勤務				
11	教 科 書	フロント・サービス・オフィス編/ウィネット					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等						
13	科 目 の 概 要	フルサービス・シティホテルの宿泊部門における運営に関する理解					
14	科 目 の 到 達 目 標	ホテル業に対するポジティブな思考を開拓し、宿泊業務全般にわたるオーソドックス セオリーを知ること					
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。					
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講 義 の スケジュール	①	客室オペレーション①				
		②	客室オペレーション②				
		③	車両誘導①				
		④	車両誘導②				
		⑤	コンシェルジュ対応				
		⑥	リレーションオペレーション①				
		⑦	リレーションオペレーション②				
		⑧	予約システムについて				
		⑨	ホテル視察				
		⑩	ホテル視察				
18	参 考 書						



1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	宴会サービスⅡ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	52	
3	履 修 単 位	20時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年生	8	選 択 ・ 必 修	必修選択	
10	担 当 教 員	氏 名	藤井 千秋	9	授 業 形 態	演習
		資 格			所 属	熊本YMCA
		実 務 経 験	ホテル勤務5年以上			
11	教 科 書	職業訓練教材研究会「西洋料理 料飲接客サービス技法」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	料飲部門の専門的知識を学び、お客様へスムーズなサービスを行う。無形のおもてなしを行うホスピタリティを養いお客様へ満足を提供できるように学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	宴会サービス部門の習得。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より70%、意欲・出席・実技点30% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	宴会機材・西洋料理の復習			
		②	宴会部門概論			
		③	宴会予約			
		④	宴会サービス			
		⑤	婚礼サービスと慶弔の知識			
		⑥	宴会プランニング			
		⑦	婚礼プランニング			
		⑧	結納について			
		⑨	実践 宴会実施訓練Ⅰ			
		⑩	実践 宴会実施訓練Ⅱ			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	飲料概論		
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	54		
3	履 修 単 位	20時間	7	期	前期		
4	開 講 学 年	2年生	8	選 択 ・ 必 修	必修選択		
10	担 当 教 員	氏 名	西本 太		9	授 業 形 態	講義
		資 格				所 属	
		実 務 経 験	ホテル勤務5年以上				
11	教 科 書	西洋料理 料飲接客サービス技法					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等						
13	科 目 の 概 要	料飲部門の専門的知識を学び、お客様へスムーズなサービスを行う。無形のおもてなしを行うホスピタリティを養いお客様へ満足を提供できるように学ぶ。					
14	科 目 の 到 達 目 標	料飲についての知識と技術を学ぶ。					
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より70%、意欲・出席点10%、実技20% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。					
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講 義 の スケジュール	①	第1章 食材・飲料等の基礎知識	食品			
		②	飲料の種類・特徴①				
		③	飲料の種類・特徴②				
		④	第3章 宴会とレストランサービス	予約解約/メニュー管理/料理・食品当の異常/救護/マナー			
		⑤	食事の国際習慣				
		⑥	実践	客席案内/注文			
		⑦	実践	テーブルサービス			
		⑧	実践	調理の仕上げ			
		⑨	実践	カクテル I			
		⑩	実践	カクテル II			
18	参 考 書						

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	ホテル業務関連知識		
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	55		
3	履 修 単 位	20時間	7	期	後期		
4	開 講 学 年	2年生	8	選 択 ・ 必 修	必修選択		
10	担 当 教 員	氏 名	西本 太	9	授 業 形 態	講義	
		資 格				所 属	
		実 務 経 験	ホテル勤務5年以上				
11	教 科 書	料飲接客サービス技法/日本ホテルレストランサービス技能協会					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等						
13	科 目 の 概 要	ホテル関連知識を幅広く学び、お客様へスムーズなサービスを行う。無形のおもてなしを行うホスピタリティを養いお客様へ満足を提供できるように学ぶ。					
14	科 目 の 到 達 目 標	ホテル全般についての知識を学ぶ。					
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。					
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講 義 の スケジュール	①	第5章 施設管理				
		②	第6章 苦情対応と遺失物の取扱い				
		③	第8章 安全衛生				
		④	安全衛生				
		⑤	第4章 食文化				
		⑥	第5章 食品衛生および講習衛生				
		⑦	食品衛生および講習衛生				
		⑧	食品衛生および講習衛生				
		⑨	ホテル業界・ニーズについて				
		⑩	まとめ				
18	参 考 書						

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	ブライダルⅡ		
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	57		
3	履 修 単 位	20時間	7	期	前期		
4	開 講 学 年	2年生	8	選 択 ・ 必 修	必修選択		
10	担 当 教 員	氏 名	上野 浩一	9	授 業 形 態	講義	
		資 格				所 属	
		実 務 経 験	ホテル勤務5年以上				
11	教 科 書	ブライダル総論/日本ホテル教育センター					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等						
13	科 目 の 概 要	ブライダル業界の動向を研究し、知識の構築に努める。業界用語、産業そしてホテル業界の中でのブライダルの位置づけを知る。					
14	科 目 の 到 達 目 標	BIA検定に対応できる知識とコーディネーターとしての役割とノウハウを学ぶ。					
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。					
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講 義 の スケジュール	①	婚礼の種類				
		②	挙式のスタイル1				
		③	挙式のスタイル2				
		④	披露宴のスタイル				
		⑤	地域による特性				
		⑥	婚礼部門の組織				
		⑦	スタッフの役割				
		⑧	葬儀・法事とは				
		⑨	仏式葬儀の進行とマナー				
		⑩	課題学習				
18	参 考 書						

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	ブライダル検定対策	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	58	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	必選	
10	担 当 教 員	氏 名	江口 久美子	9	授 業 形 態	講義
		資 格	教員免許(家庭科) BIA認定ブライダルコーディネーター ABC認定ブライダルコーディネーター		所 属	合同会社 La Grange
		実 務 経 験	結婚専門式場 10年 ホテル勤務 17年 専門学校非常勤講師 15年			
11	教 科 書	ブライダル実務テキスト参考				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等	ブライダルコーディネータ技能検定3級(国家検定)				
13	科 目 の 概 要	ブライダルコーディネータ職種における初級の「専門知識」の習得				
14	科 目 の 到 達 目 標	ブライダルコーディネータ技能検定3級【学科・実技】両方合格				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は定期試験、出席率、態度、学習意欲、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。しかし、再試験もしくは再々試験の結果が成績を授与するに十分とみなされれば単位が認定される。出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	オリエンテーション ブライダルコーディネータ技能検定とは			
		②	ブライダルコーディネータ過去問題 ブライダルコーディネータの役割と業務			
		③	ブライダルコーディネータ過去問題 ブライダルに関する基礎			
		④	ブライダルコーディネータ過去問題 ブライダル市場			
		⑤	ブライダルコーディネータ過去問題 ブライダル経営管理・コンプライアンス			
		⑥	ブライダルコーディネータ過去問題 クレームへの対応 ・ヒアリング・プレゼンテーション			
		⑦	ブライダルコーディネータ過去問題 手配業務			
		⑧	ブライダルコーディネータ過去問題 当日業務			
		⑨	ブライダルコーディネータ技能検定3級【学科】過去問題2019年度(40分)・2020年度(40分)			
		⑩	まとめ			
18	参 考 書	*ブライダルコーディネータテキスト(スタンダード)資料コピー配布				

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	電子会計Ⅱ		
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	63		
3	授 業 時 数	20時間	7	期	前期		
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	選択必修		
10	担 当 教 員	氏 名	開田 晋作	9	授 業 形 態	講義	
		資 格				所 属	
		実 務 経 験	職業訓練校講師5年以上				
11	教 科 書						
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等						
13	科 目 の 概 要	弥生会計ソフトを用いた電子会計実務					
14	科 目 の 到 達 目 標	コンピューターを用い仕分け資産票の作成実務ができるようになること。					
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より70%、意欲・出席点10%、実技20% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。					
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)					
17	講 義 の スケジュール	①	簿記基礎				
		②	日常の手続き				
		③	商品売買				
		④	現金・貯金				
		⑤	現金小口				
		⑥	クレジット買掛金				
		⑦	手形取引				
		⑧	電子記録債権・債務				
		⑨	様々な帳簿の関係				
		⑩	その他の取引				
18	参 考 書						

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	電子会計Ⅲ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	64	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	選択必修	
10	担 当 教 員	氏 名	開田 晋平	9	授 業 形 態	講義
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	職業訓練校講師5年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	弥生会計ソフトを用いた電子会計実務				
14	科 目 の 到 達 目 標	コンピューターを用い仕分け資産票の作成実務ができるようになること。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より70%、意欲・出席点10%、実技20% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意すること。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: karoujite認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	訂正仕分け			
		②	試算表			
		③	決算			
		④	決算整理			
		⑤	決算整理語残高試算表			
		⑥	精算表			
		⑦	帳簿の締め切り			
		⑧	損益計算書と貸借対照表			
		⑨	株式の発行			
		⑩	剰余金の配当と処分			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	税務会計Ⅱ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	66	
3	授 業 時 数	40時間	7	期	通期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	選択必修	
10	担 当 教 員	氏 名	清水 清	9	授 業 形 態	講義
		資 格	高校教諭1級・税理士		所 属	南九州税理士会
		実 務 経 験	公立高校教諭10年以上・税理士10年以上			
11	教 科 書	「税法」のしくみとルール				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	税法や税務会計に関する知識を学習し、取引を正確に記帳するとともに、税金を正しく計算し申告能力を学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	税法にと止まらず簿記で学んだ知識と技術を展開する。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	1	成文法 不文法 (法律・命令・規則の関係) 会社の計算規定をめぐる諸問題			
		2	企業会計原則について、新会社法の特徴、会社の種類・内容			
		3	法人税 (法人税の所得の計算方法・所得の金額の計算に関する明細書)			
		4	法人税 (別表四作成・法人税確定申告書作成)			
		5	労働保険・社会保険 (労災保険・雇用保険・厚生年金・健康保険・計算)			
		6	給与 (源泉徴収簿作成・年末調整)			
		7	銀行業務 (小切手のしくみと決済の流れ・手形の種類と発行・裏書)			
		8	銀行業務 (手形裏書・権利移転的効力・手形人的抗弁・手形物的抗弁)			
		9	減価償却費 (減価償却費の計算 定額法・定率法 償却費<保証額の計算)			
		10	まとめ			
18	参 考 書					



1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	税務会計Ⅱ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	66	
3	授 業 時 数	40時間	7	期	通期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	選択必修	
10	担 当 教 員	氏 名	清水 清	9	授 業 形 態	講義
		資 格	高校教諭1級・税理士		所 属	南九州税理士会
		実 務 経 験	公立高校教諭10年以上・税理士10年以上			
11	教 科 書	「税法」のしくみとルール				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	税法や税務会計に関する知識を学習し、取引を正確に記帳するとともに、税金を正しく計算し申告能力を学ぶ。				
14	科 目 の 到 達 目 標	税法にと止まらず簿記で学んだ知識と技術を展開する。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	11	成文法 不文法 (法律・命令・規則の関係) 会社の計算規定をめぐる諸問題			
		12	企業会計原則について、新会社法の特徴、会社の種類・内容			
		13	法人税 (法人税の所得の計算方法・所得の金額の計算に関する明細書)			
		14	法人税 (別表四作成・法人税確定申告書作成)			
		15	労働保険・社会保険 (労災保険・雇用保険・厚生年金・健康保険・計算)			
		16	給与 (源泉徴収簿作成・年末調整)			
		17	銀行業務 (小切手のしくみと決済の流れ・手形の種類と発行・裏書)			
		18	銀行業務 (手形裏書・権利移転的効力・手形人的抗弁・手形物的抗弁)			
		19	減価償却費 (減価償却費の計算 定額法・定率法 償却費<保証額の計算)			
		20	まとめ			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	会社実践 I	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	67	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	前期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	選択必修	
10	担 当 教 員	氏 名	清水 清	9	授 業 形 態	講義
		資 格	高校教諭1級・税理士		所 属	南九州税理士会
		実 務 経 験	公立高校教諭10年以上・税理士10年以上			
11	教 科 書	TAC出版「経理実務が身につく本」				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	会社の事業活動を中心に、新会社、計算規定、手形・小切手、国税等会計ルールを一連の業務の中で、総合的に学習する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	これまで学習してきた会社実務の中から、総合的な学習をして、合理的、能率的に処理する能力と態度を養う。				
15	科 目 の 必 須 条 件	成績は、資格試験受験または定期試験、出席率、平常点(態度、学習意欲)、提出課題等を総合して評価する。成績が60点より低い場合、原則として科目は不合格とみなされる。定期試験より90%、意欲・出席点10% 出席率が66.67%より低い場合、いかなる状況下でも単位は認められない。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	成績評価と点数の関係は下記の通りである。点数は総合評価に基づいていることに注意する。 A: 優秀な点数で科目に合格した。(100-80) B: 申し分ない点数で科目に合格した。(79-70) C: かるうじて認められる点数で科目に合格した。(69-60) D: 合格点数に到達せず、科目に不合格した。(59-0)				
17	講 義 の スケジュール	①	新会社法(概要、形態、計算書類、特徴等)			
		②	新会社法(株式会社の基本)			
		③	会社の計算規定(会社に関する法律、基準)			
		④	国税・地方税(法人税、地方法人税、事業税)			
		⑤	国税・地方税(所得の計算、確定申告)			
		⑥	社会保険(保険料の計算、適用範囲)			
		⑦	所得税の源泉徴収(給与、退職金の計算)			
		⑧	所得税の源泉徴収(源泉徴収簿作成、年末調整)			
		⑨	小切手(作成、法的知識、利用方法)			
		⑩	手形(作成、法的知識、利用方法)			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	会社実践Ⅱ	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	68	
3	授 業 時 数	20時間	7	期	後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	選択必修	
10	担 当 教 員	氏 名	清水 清	9	授 業 形 態	講義
		資 格	高校教諭1級・税理士		所 属	南九州税理士会
		実 務 経 験	公立高校教諭10年以上・税理士10年以上			
11	教 科 書	経理実務が身につく本				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	会社の事業活動を中心に、新会社、計算規定、手形・小切手、国税等会計ルールを一連の業務の中で、総合的に学習する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	これまで学習してきた会社実務の中から、総合的な学習をして、合理的、能率的に処理する能力と態度を養う。				
15	科 目 の 必 須 条 件	簿記3級程度の能力があること。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	期末に大きな負担を避けるために、単元ごとに、平常テストを実施する。出席、授業態度も配慮する。				
17	講 義 の スケジュール	①	社会保険(概要、保険料計算、適用範囲等)			
		②	社会保険(概要、保険料計算、適用範囲等)			
		③	社会保険(概要、保険料計算、適用範囲等)			
		④	社会保険(概要、保険料計算、適用範囲等)			
		⑤	減価償却(概要、種類、計算方法、償却限度額)			
		⑥	減価償却(概要、種類、計算方法、償却限度額)			
		⑦	年末調整(概要、所得源泉徴収簿作成)			
		⑧	年末調整(概要、所得源泉徴収簿作成)			
		⑨	年末調整(概要、所得源泉徴収簿作成)			
		⑩	年末調整(概要、所得源泉徴収簿作成)			
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	卒業製作	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	72	
3	授 業 時 数	200時間	7	期	前期・後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	選択必修	
10	担 当 教 員	氏 名	藤井千秋	9	授 業 形 態	実習
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	ホテル経験5年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	即戦力を身に着けるための実務訓練を行い、社会性とコミュニケーション能力をみにつける				
14	科 目 の 到 達 目 標	現場での実習を経験し実践力をみにつける。				
15	科 目 の 必 須 条 件	1年次のカリキュラムの履修と2年前期の履修が終了していること。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	授業への積極的参加、チームでの連携、主体的な行動での計画・実行をおこなうこと。但し、欠席・遅刻は減点対象とす。				
17	講 義 の スケジュール	① ~ ④	実習後のフォローアップ指導			
		⑤ ~ ⑳	企業実習(各実習先への勤務)			
		㉑ ~ ㉔	実習後のフォローアップ指導			
		※ 日 に ち				
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	卒業製作	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	72	
3	授 業 時 数	90時間	7	期	前期・後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	選択必修	
10	担 当 教 員	氏 名	藤井千秋	9	授 業 形 態	実習
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	ホテル経験5年以上			
11	教 科 書					
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	実習先の概要を理解し、机上で学んだ知識を、職場体験を通じて自己のものとする。お客様への対応とセクションの方と良好な関係を構築し自ら積極的に行動する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	現場での実習を経験し実践力をみにつける。				
15	科 目 の 必 須 条 件	1年次のカリキュラムの履修と2年前期の履修が終了していること。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	授業への積極的参加、チームでの連携、主体的な行動での計画・実行をおこなうこと。但し、欠席・遅刻は減点対象とす。				
17	講 義 の スケジュール	① ~ ②	実習前のフォローアップ指導			
		③ ~ ⑯	企業実習(各実習先への勤務)			
		⑰ ~ ⑳	実習後のフォローアップ指導			
		※ 日 に ち				
18	参 考 書					

1	課 程	商業実務専門課程	5	科 目 名	卒業製作	
2	学 科	ビジネス総合学科	6	科 目 番 号	72	
3	授 業 時 数	20時間・90時間	7	期	前期・後期	
4	開 講 学 年	2年	8	選 択 ・ 必 修	選択必修	
10	担 当 教 員	氏 名	藤井千秋	9	授 業 形 態	演習
		資 格			所 属	
		実 務 経 験	ホテル経験5年以上			
11	教 科 書	ブライダルプランナーテキスト				
12	関 連 資 格 ・ 検 定 等					
13	科 目 の 概 要	模擬結婚式当日(挙式・披露宴)の流れと、各部署の役割を理解する。模擬挙式・披露宴を通じて接客の手順を理解する。				
14	科 目 の 到 達 目 標	模擬挙式の成功。				
15	科 目 の 必 須 条 件	1年次のカリキュラムの履修と2年前期の履修が終了していること。				
16	成 績 評 価 お よ び 評 価 基 準	授業への積極的参加、チームでの連携、主体的な行動での計画・実行をおこなうこと。但し、欠席・遅刻は減点対象とす。				
17	講 義 の スケジュール	① ~ ②	概要・目的・演習内容の理解。スケジュール調整			
		③ ~ ④	結婚式の歴史・地域の習慣・トレンド。会場選択・骨子・キャスト。			
		⑤ ~ ⑧	役割分担、流れや衣装、練習			
		⑨ ~ ⑫	練習			
		⑬ ~ ⑮	練習			
		⑯ ~ ⑰	練習			
		⑱ ~ ⑳	練習			
18	参 考 書					